平成３０年度　市立横手病院 方針書

市立横手病院　事務局長　　浮嶋　優子

１．市立横手病院の使命（役割）

・医療圏の基幹病院として、地域の人々が必要とする医療を確保し、安心できる医療を提供する。
・地域の急性期医療を担う。
・地域の病院、診療所、行政等との連携を図り、地域包括ケアの具体化実現に寄与する。
・地域住民の健康確保と地域保健に貢献する。

２．平成３０年度における課題（前年度の振り返りから）

・安全で質の高い「チーム医療」の充実
・医師、医療従事者などの人材確保と育成
・低コスト運営の継続
・業務改善による労働環境の適正化

３．平成３０年度の『スローガン』

「入りを量りて、出ずるを制す」

４．年度目標となる方針（目標）

1、安全で質の高い医療の提供
2、地域包括ケア推進のための取り組み
3、人材確保と育成
4、業務改善と働き方改革
5、病院経営への積極的な参画
6、施設の計画的な改修について

５．重点取組項目

（1）	項目	急性期医療の提供と効率的な病床管理
	取組内容	◎7対1基準看護の維持　・・・　重症度、医療・看護必要度Ⅰ該当患者割合30%維持 入退院支援体制の継続と地域包括ケア病棟の効率的な活用 ◎各病棟において効率的な病床管理　・・・急性期病床稼働率　80%　地域包括ケア病棟　90%
（2）	項目	平成30年度診療報酬改定への対応とチーム医療による経営改善
	取組内容	◎自院の現状とベンチマークでの分析を行い、他の病院との比較をし自院の立ち位置を周知するとともに全職員が共通に認識する ◎診療報酬で認められていることを、可能な限り算定する ◎看護科、薬剤科、食養科、リハビリ、検査科、医事課等が経営における「チーム医療」を実践する ◎入院単価　51,000　円　　外来単価　11,200　円　を目標とする
（3）	項目	施設の計画的な改修について
	取組内容	◎現食堂、売店の状況と今後の必要性について検討 ◎良質な医療の提供と患者サービスの向上を目的とした、施設設備の改修・更新の基本計画を策定

６．方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況　【現状】

急性期医療の提供として7対1基準看護の維持については、重症度、医療・看護必要度30%超えを維持できたが、効率的な病床運営については、急性期病棟・地域包括ケア病棟とも目標としている病床稼働率それぞれ80%・90%をクリアできておらず、大きく下回った。
今年度の診療報酬改定の影響としては、入院収益においてはプラスの結果となっており、特に入院収益において、DPCの係数アップや短期入院の算定変更など影響で、入院単価が昨年度と比較して2,000円ほどのアップとなった。
施設の改修については、定期的に施設整備基本計画策定委員会を開催し、全体の計画と工程について検討を行った。

７．年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

◎入院延べ患者数の変化について、その原因を精査し、下半期に向けて対策を早急に提示し病床利用率アップと収益の確保を図る。
◎診療報酬上算定可能な項目については徹底的な算定を目標とし、各部門との連携・強化しながらチーム医療を実践する。
◎施設の改修計画について、院内外に向けた説明を行う。

８．総括　取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

・急性期医療の提供と効率的な病床管理については、下半期において病床稼働率がアップし、地域包括ケア病棟の効率的な活用がされた。急性期病棟は88.2%（2月末）　ケア病棟は93%（2月末）の稼働率となった。
・今年度の診療報酬改定の影響は入院外来収益ともプラスの結果が出ており、入院単価では5万円には届かなかったが、手術や、検査等の増により49,600円の入院単価となった。
一方外来単価は化学療法などの薬剤の使用により、外来単価が1万円を超えており目標に近いものとなった。
・チーム医療の充実では栄養管理体制と認知症への対応が遅れており、これらについては次年度への課題とした。
・医療費のベンチマークでは十分な検討がなされなかったことから、今後の課題とし次年度へ引き継ぐこととした。
・施設改修の計画については、施設整備基本計画策定委員会を開き、基本計画を策定した。次年度には基本設計、実施設計の作成を行う。